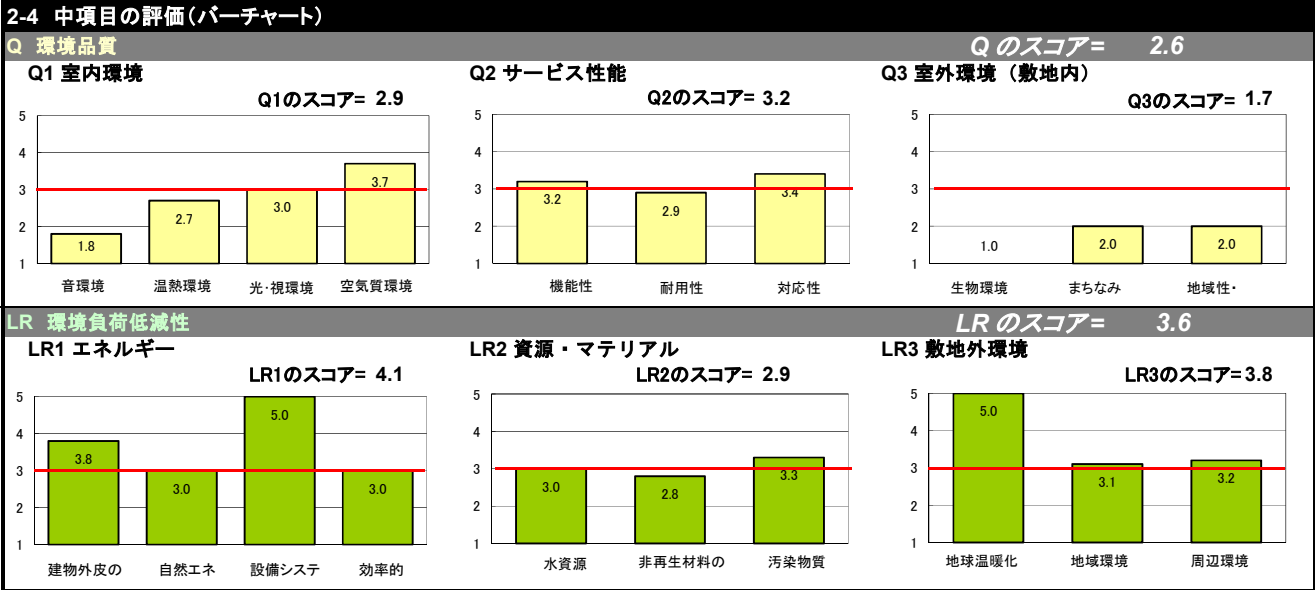
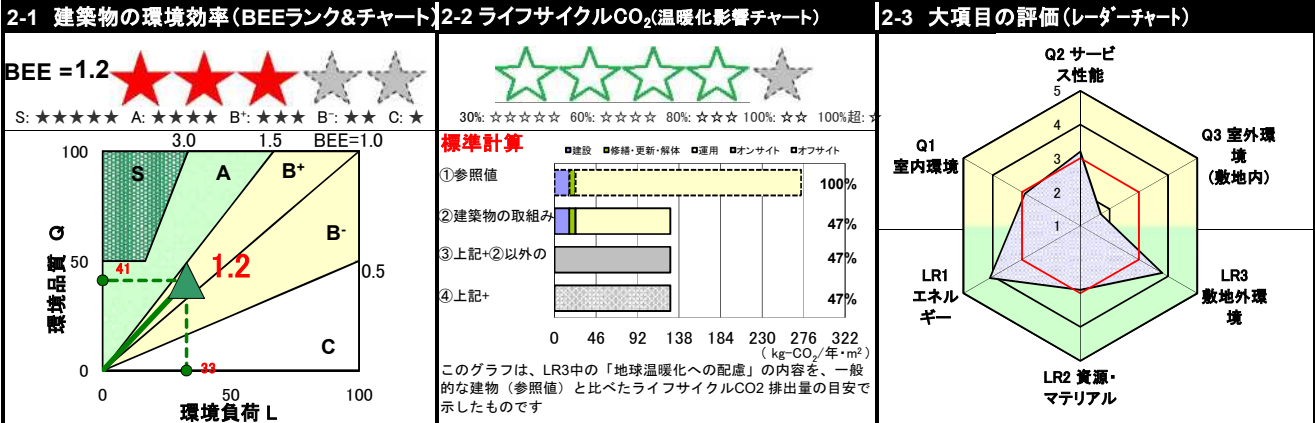


CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)TRIAL浜松葵西店	階数	地上1F
建設地	静岡県浜松市中央区葵西六丁目69	構造	S造
用途地域	工業地域、下水道処理区域内、法2	平均居住人員	3,000 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	物販店,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年4月 予定	評価の実施日	2025年6月26日
敷地面積	10,486 m ²	作成者	株式会社河村佐藤デザイン
建築面積	4,192 m ²	確認日	
延床面積	4,152 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		
総合		その他
「これはCASBEE静岡(2021年SDGs対応版)による評価結果です。」		特になし
道路面からの圧迫感に配慮し、透明感を強調し、周囲との景観の調和やまちなみへの潤いを生み出すために敷地周囲に緑地を配置した。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
・F☆☆☆☆建材を使用 ・喫煙所を設け、施設内の空気質環境に配慮した。	・階高にゆとりをもたせ、建物自由度をたかめた。 ・設備系統はメンテナンスを考慮した計画とした。	・作業室の排気口を屋根面に向け、空気質環境を考慮した。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
・屋根材に断熱性能のあるものを採用した。	・断熱材はすべてノンフロンとした。	・適切な数の駐車駐輪スペースを計画し、出入口附近での車両の軌跡検討を行い、周辺の交通負荷軽減に配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

1. 建物概要										
建物名称	(仮称)TRIAL浜松美西店				BEE	1.2	BEEランク	B+	★★★	
2. 重点項目への取組み度										
重点項目	得点※/満点		取組み度				評価			
”ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進 (Global Warming)	3.6	/5					ふつつ			
”災害に強いしずおか”の形成 (Disaster)	2.8	/5					がんばろう			
”しずおかユニバーサルデザイン”の推進 (Universal Design)	3.0	/5					ふつつ			
”緑化及び自然景観”の保全・回復 (Nature)	2.3	/5					がんばろう			
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示 します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例	よい 4 点以上		ふつつ 3 点以上		がんばろう 3 点未満		
3. 重点項目についての環境配慮概要										
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。					内訳対応項目					
”ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進(Global Warming)					得点		3.6			
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④外壁仕上材の補修必要間隔の耐用年数が10年の物を採用。				Q-1	2	2.1	2.1.2	①	外皮性能
					Q-1	3	3.1	3.1.3	②	昼光利用設備
							3.2	3.2.1	③	昼光制御
					Q-2	2	2.2	2.2.1	④	躯体材料の耐用年数
							2.2.2	④	外壁仕上材の補修必要間隔	
							2.2.3	④	主要内装仕上材の更新必要間隔	
							2.2.4	④	空調換気ダクトの更新必要間隔	
							2.2.5	④	空調・給排水配管の更新必要間隔	
							2.2.6	④	主要設備機器の更新必要間隔	
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤植栽条件に応じた緑化づくり。				Q-3	1			⑤	生物環境の保全と創出
					3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上	
	■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑨LED照明の採用。高効率空調機の導入。				LR-1	1			⑦	建物外皮の熱負荷抑制
						2			⑧	自然エネルギー利用
						3			⑨	設備システムの高効率化
						4	4.1		⑩	モニタリング
							4.2		⑩	運用管理体制
	■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪省水型機器の採用。 ⑫躯体と仕上材が容易に分別可能(LGS下地)。				LR-2	1	1.1		⑪	節水
							1.2	1.2.1	⑪	雨水利用システム導入の有無
								1.2.2	⑪	雑排水等利用システム導入の有無
						2	2.1		⑫	材料使用量の削減
							2.2		⑫	既存建築躯体等の継続使用
							2.3		⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用
							2.4		⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用
							2.5		⑫	持続可能な森林から産出された木材
							2.6		⑫	部材の再利用可能性向上への取組み
					3	3.1			⑬	有害物質を含まない材料の使用
						3.2	3.2.1	⑬	消火剤	
						3.2.2		⑬	断熱材	
						3.2.3		⑬	冷媒	
■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭省エネルギー対策として高効率設備機器を採用した。				LR-3	1			⑭	地球温暖化への配慮	
					2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善	
”災害に強いしずおか”の形成(Disaster)					得点		2.8			
	■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) 特になし				Q-2	2	2.1	2.1.1	⑯	耐震性
								2.1.2	⑯	免震・制振性能
							2.4	2.4.1	⑰	空調・換気設備
							2.4.2		⑰	給排水・衛生設備
							2.4.3		⑰	電気設備
							2.4.4		⑰	機械・配管支持方法
							2.4.5		⑰	通信・情報設備
”しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)					得点		3.0			
	■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑱バリアフリー法誘導基準相当の計画とした。				Q-2	1	1.1	1.1.3	⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画
						3	3.1	3.1.1	⑲	階高のゆとり
								3.1.2	⑲	空間の形状・自由さ
					Q-3	3	3.1		⑲	地域性への配慮、快適性の向上
”緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)					得点		2.3			
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) 特になし				Q-3	1			⑤	生物環境の保全と創出
						2			⑥	まちなみ景観への配慮
						3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上
	■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) 特になし				LR-2	2	2.5		⑫	持続可能な森林から産出された木材
					LR-3	2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善